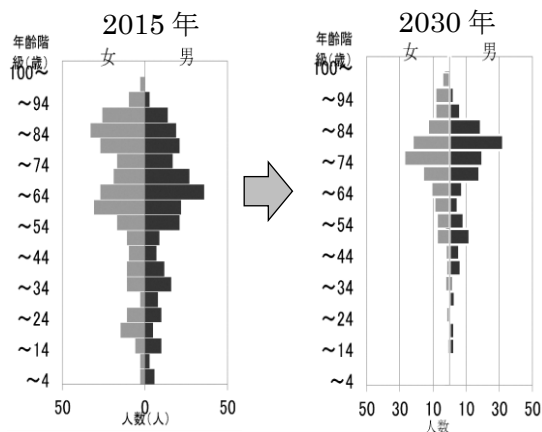


1 久野地区の概要

久野谷3里と言われ、谷に挟まれた細長い地帯である。

人口567人、世帯数180戸、高齢化率44.6%高齢者の単独世帯数は21戸である。

4年前に久野小学校が閉校になり、この機会に久野地区の課題を検討するため、久野地区活性化専門委員会を立ち上げ、その1つとして安全安心で活力ある久野地区になるよう地区計画を策定した。



上記のグラフが人口統計図である。人口シミュレーションにより15年後の人口予想を比較してみると、若い人口が急激に減り、現在3世代同居されている家も、高齢者のみの世帯に移っていくのが想定できる。

2 事業の趣旨

(1) 地区計画策定の際に、中学生以上を対象としたアンケート調査を実施した。活性化に関するアンケートと題して、久野地区の「地域づくり」はどのような方向性を目指すのが望ましいと思いますか？の問いに多くの意見が出たのは、高齢者が安心して暮らせることが最も多く、続いて住民が互いに助け合うと続

きました。7番目にあったのは災害対策・防犯を重視。それ以外にも、3～5年後の久野地区がどうなっていきたいかの希望する姿の意見の中に、「安心して暮らせる対策がある。」「防災対策ができています。」「人材育成・交流活動の活性化。」という意見があった。

(2) 久野地区自主防災委員会が2年前に立ち上がり、「災害発生時の応急活動のための組織編制及び任務分担」「防災知識の普及啓発」「防災訓練」「防災資料の収集」「要支援者支援名簿」等が作成されている。ただし、現状では、書類上の作成が中心になっており、いざという時の活動の訓練や、組織の動きがまだ確立されていない。

(3) 今回の事業にあたり、住民の意識について調査を試みた。「今まで災害によって被害を受けたり、身近に危険を感じたりしたことがありますか？」の問いには、「地震」「台風」「豪雨」「河川の氾濫」「豪雪」が多く挙げられた。「土砂災害に関心がありますか？」には「非常に関心がある。」と「多少関心がある。」の合計が88%であった。ただし、「避難経路を知っていますか？」では、79%が「知らない。」となった。

(4) (1)(2)(3)の結果より、災害に対して危険を感じているので、安心して暮らしていきたい意識を持ちつつも、災害時の対策について、どのように対処したらよいのか不安を感じているのがうかがえる。また、人材育成や、交流活動の活性化を求める声から、未来に繋がる持続可能な地域づくりをすることが求められているのがわかる。

3 具体的な取組内容

<ステップ1>

○消防水利を調査

防災で一番身近なのが火災。もしも火災があったら火を消すのに必需となる。重要な個所を調査。

<ステップ2>

○雲南市の災害警戒時の動きを知る。



<ステップ3> イマジネーションにより

自分の身に起きた時の動きを考える。

○実際に起きた災害の様子を聞く。

○身の回りで起こると思う災害は？

○夜明け前に震度6の地震が起きた。

あなたはどう動く？

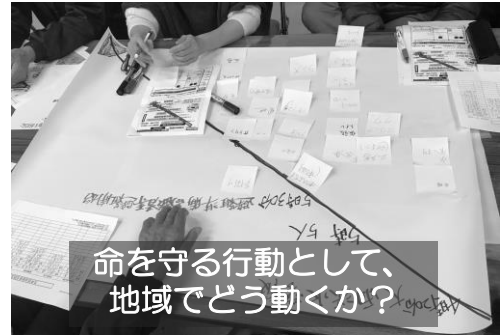
<ステップ4> フィールドワークで確認 グループ討議で認識の共有



<ステップ5>

イマジネーショントレーニング

○災害を仮定したタイムワーク



4 評価と成果

今回の学習後、アンケートを実施した。

「防災の意識が高揚したか？」では、「高揚した。」が50%「やや高揚した。」が50%。他にも「学習した内容について、誰かに話をしてみたいか？」では「思う。」が60%「まあ思う。」が38%で、ほとんどの人が、今回の学習結果を知らない人に伝授してもいいとの結果となった。そういった人が将来のリーダー候補として期待できる。本事業の取り組みにより、防災に対するの備えが不足していることを、役員をはじめ参加者が実感できたことで、前向きに取り組みたい(取り組まないといけない)という意識となったことがアンケートの結果から読み取れた。

5 今後の課題と見通し

今回の学習により、防災に係る取り組みに対して、参加者からこの活動は必要なものと認識された。また、役員、関係者の反復研修による習熟度の向上、高揚、自治会の防災組織の定着と問題提起、避難訓練をするべきだとの意見があった。このことから、その方向性に向かっていくものと考えられる。その他にも、共助を考慮した避難訓練や非常食の煮炊きなど順次取り組んでいきたい。

(文責：集落支援員 長妻美保子)